事例No.	2272
公表年度	R4
団体の属性	指定都市
団体名	神奈川県川崎市

事例区分	地域活性化

タグ	・福祉・介護 ・新たな政策手法の確立・活用 ・関係人口

事例種類	ニューバリューチェーンの創出

事例内容・タイトル

医療・福祉拠点の形成

出典

地方自治研究機構：ポストコロナにおけるニューバリューチェーン創出可能性に関する調査研究（令和３年度）

＜調査研究事業：ポストコロナにおけるニューバリューチェーン創出可能性に関する調査研究（令和３年度）＞

〇ニューバリューチェーン創出（新たな付加価値を創出する好循環サイクル）

取組団体：神奈川県川崎市

取組内容：医療・福祉拠点の形成

１．取組の背景・目的及び取組の内容

（１）　川崎市が推進する「ウェルフェアイノベーション」

①　取組について

川崎市においては、高齢化等の社会課題とヘルスケア市場拡大等の産業動向を背景に、2013年度に「川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画」を策定し、「産業と福祉の融合で新たな活力と社会的価値の創造」を目指し、約 300 の企業・団体等から構成されるウェルフェアイノベーションフォーラムを運営し、福祉課題を解決する異業種間連携等の新たな製品・サービスの創出や、市独自の福祉製品基準である「かわさき基準（KIS）」認証を通じた製品の活用促進等を進めている。

②　取組の基本方針と行動計画

ア　新たな製品・サービスの「創出」

将来的な福祉課題への先行的な対応を図るため、「産業と福祉のハブ機能」として産業界のシーズと多様化する福祉業界へのニーズを結び付け、最新技術活用を含め新たな製品・サービスの「創出」に向けた動きを促進する。

イ　新たな製品・サービスの「活用」

産業界で生み出された新たな製品・サービスを、福祉業界での「活用」を促すことを通じて、活用による新たな発見等による「価値の創出」に向けた動きを促進する。

ウ　将来を先取りする新たな社会モデルの「創造・発信」

製品・サービスの活用により生み出された「価値」を、住まい・移動・健康寿命延伸などのライフスタイルやワークスタイルの広範な領域にわたって、将来を先取りする新たな社会モデルとして創造・発信していく。

製品を開発する産業界と様々なニーズを持つ福祉業界（現場）を結び付け、
新たな製品・サービスの「創出」「活用」、社会モデルの「創造・発信」



出所：川崎ウェルテック HP

（２） 新たな「創出」「活用」のための取組

① ウェルフェアイノベーションフォーラム（ネットワーク形成のプラットフォーム）

産業を福祉が融合するウェルフェアイノベーションの推進のためには、サービスを提供する「現場」と企業や人材など関係者間のネットワークの形成が重要であることから、そのプラットフォームとして平成 25 年に「ウェルフェアイノベーションフォーラム」が立ち上げられた。

ここには、市内・市外を問わず多くの企業や、新たな製品・サービスの試験導入など実証フィールドを提供できる福祉現場が参画しており、参加者の交流の場を提供している。

ウェルフェアイノベーションフォーラムの主な企業（令和 3 年 10 月時点）

主な会員 （会員数：373企業・団体 ※令和3年10月1日時点）	
医療・介護・ヘルスケア関係機関	川崎市社会福祉協議会、川崎市老人福祉施設事業協会、川崎市障害福祉施設事業協会、公益財団法人テクノエイド協会 等
金融機関	川崎市信用保証協会、川崎信用金庫、日本政策金融公庫等
大学・研究機関	ＮＥＤＯ、慶応義塾大学、専修大学、横浜国立大学等
行政機関	経済産業省、厚生労働省、大田区（産業経済部）等
その他	川崎商工会議所、市内又は市外の福祉機器開発・製造企業、市内福祉施設 等

企業と福祉現場の連携によるプロジェクト例



出所：ともに経産省 地域におけるヘルスケア産業の創出（PR 資料）

② かわさき基準（KIS）

高齢者や障がい者などが誰でも自立して安心して暮らせることを目指して川崎市が独自に示した福祉製品の在り方の基準。

川崎市内の企業、市内への立地を検討している企業、市内の企業と協働で製品の開発を予定している企業を対象として、福祉製品を公募し、認証・普及している。

平成 20 年に始まり、令和２年までで 268 の製品が認証されている。

基準による評価に当たっては、当事者モニターによる実際に利用した上での評価を重視しているほか、認証を受けた製品は、モニターとなる事業所（福祉施設や医療機関）で商品化前に一定期間お試しされ、より有効な活用と製品に関する情報発信が行われる。

かわさき基準認定ロゴ

出所：川崎市 HP

③　開発支援拠点ウェルテック

市複合福祉センター「ふくふく」内に福祉製品・サービスの改良・開発を支援する「Kawasaki Welfare Technology Lab」（ウェルテック）を令和３年度８月に開設。

川崎市・東工大・産総研の三者が共同で運営し、福祉製品の開発や改良に取り組む企業（主に市内の中小・ベンチャー企業）に対して、安全性・性能等評価（定量評価）や技術的助言等の伴奏支援を実施するとともに、同一建物内の福祉施設においてモニター評価を行い、現場の声を聞くことも可能となっている。

また、優れた福祉製品等の創出を総合的に支援するため、福祉製品の開発経費の助成も行う。

＜ウェルテックでの取組＞

・高齢者・障がい者及び支援人材と開発事業者の橋渡し等の開発事業者に対する伴奏支援
・企業が海外で製品を販売する際に必要な安全性や性能に関するデータの構築
・かわさき基準取得のサポート

④　ウェルフェアイノベーションフォーラムの開催

企業や福祉事業者など多様な主体が参加する「ウェルフェアイノベーションフォーラム」を開催し、現場のニーズと企業の技術のマッチングの場として、かわさき基準の認証式や事業者プレゼン、認証製品の体験・展示会を実施している。

【参考】

川崎市ホームページ（ウェルフェアイノベーション）

https://www.city.kawasaki.jp/jigyou/category/79-31-2-0-0-0-0-0-0-0.html

川崎ウェルテック HP

https://www.kawasaki-weltech.com/

ともに経産省 地域におけるヘルスケア産業の創出（PR 資料）

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/chiiki/pdf/03kantou.pdf

かわさき基準認定ロゴ

https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000083978.html